

市民説明会での主な質問・意見の要旨（糸魚川市会場分）

- 人口減少や高齢化が進むことで、医療需要が大きく変わり、医療の担い手が減少する中、上越地域医療構想調整会議では、将来にわたって持続可能な医療提供を行うための医療再編について検討を進めてきたところ、令和8年3月25日に行われた調整会議において、再編の全体像（方向性）やロードマップについて合意に至りました。
- 医療再編にあたっては、医療を受ける市民のみなさまの理解が欠かせないことから、調整会議での検討内容について説明するため、市民説明会を開催することとなり、糸魚川市では以下の3会場で説明を行いました。
 - 令和8年6月6日（土）糸魚川市民会館（参加者 65人）
 - 令和8年6月6日（土）青海総合文化会館（参加者 27人）
 - 令和8年6月7日（日）能生生涯学習センター（参加者 22人）
- 併せて、医療再編に関する理解を深めていただくため、わかりやすさの観点から、説明会当日に明確に回答できなかった点についても補足したうえで、要旨としてとりまとめました。

1 再編全般・医療提供体制について

	質問・意見の要旨	回答の要旨
①	家族が病気になったが、糸魚川では原因がわからず、上越市の病院でようやく原因が特定できたという経験がある。糸魚川に高度機能の病院が欲しいところであるが、人口減少や経営状態から難しいであろうから、上越医療圏には高度機能の病院を残してもらいたいと切実に思う。	● 少子高齢化による医療需要の変化や医療の担い手の減少などに対応し、医療提供の形を変えながらも将来に残していくため、これまで再編の検討を進めてきた。 ● 再編により、高度医療や急性期医療を集約した新中核病院をつくりあげていくこととしている。
②	今回の再編で、病院の外来機能はどうなるのか。	● 今回の再編の対象は主に入院機能であり、外来機能は維持することとしている。

③	新たな地域医療構想の策定が2年遅れたことを踏まえ、同じ轍を踏まないためにも、今回の再編は着実に推進してほしい。	● 新たな地域医療構想は令和10年度末までに策定することとされている。 ● 一方、県では、令和3年度に地域医療構想グランドデザインを策定し、各圏域で検討を進めているところであり、上越医療圏ではグランドデザインに基づく医療再編を全国に先駆けて検討してきた。 ● 新たな地域医療構想の議論は遅れがないように進めていくとともに、今回の上越医療圏の再編も着実に検討を進め、速やかに実行に移していきたい。
④	高齢化が進展しており、医療過疎が進んでいることから、県と市で協力して再編を早期に進め、速やかに市民へ周知して欲しい。	● 今回の再編については、県と市で協力しながら、できるだけ早く進めていきたいと考えている。
⑤	地域医療を守るのは県の仕事であり、新潟県の最西である糸魚川のへき地をどうするか、念頭に置きながら再編を進めて欲しい。	● 持続可能な地域医療提供体制の検討にあたっては、県と市で協力しながら取り組んできたところであり、引き続き連携して取り組んでいく。
⑥	糸魚川市は3次救急病院まで50km程度あり、厳しい地域特性があることから、他県との連携も視野に入れて考えるべきではないか。	● 糸魚川市の中には、県立中央病院よりも富山県の黒部市民病院の方が近い地域もあり、現状でも搬送されているものと承知している。 ● 今後も安定的な受入れを維持していただけるよう働きかける必要があることから、再編の全体像が見えてきた段階で、富山県との連携も進めていきたいと考えている。

⑦	糸魚川市の住民は富山県のあさひ総合病院や黒部市民病院にも受診しており、特に、あさひ総合病院では予約なしでの外来受診が可能であることから、糸魚川から富山県に患者が流れていると考えられるが、資料で示された糸魚川のデータはそれを加味したものになっているのか。	● 資料で示した数字は、入院に関するもので、今回の再編の対象は主に入院機能であり、外来機能は維持することとして検討を進めてきたところであるが、外来機能を含め、今後、富山県との連携を進めていきたいと考えている。
---	--	--

2 新中核病院・新地ケア病院について

	質問・意見の要旨	回答の要旨
①	県立中央病院と上越総合病院が一体的運営となるにあたり、異なる組織の人たちが積極的に課題を解決していけるのか。	● 再編における県立中央病院と上越総合病院の機能分化を図るために必要な一体的運営について、その具体的な手法は、検討委員会を設置して、検討を行っているところである。 ● 再編により医療提供体制を変えていかないと将来的に医療を上越医療圏に残すことが困難であるとの認識を関係者は持っていることから、しっかりと検討を行い、できるだけ早く進めていきたい。
②	医師や看護師の派遣について、経営母体が異なっても、新中核病院と新地ケア病院の間で派遣は可能なのか。 また、コメディカルや事務職員なども派遣を想定しているのか。	● 一体的運営について、手法は様々あり、現在検討中であるが、医師だけでなく看護師も派遣できる体制が確保されるような運営の形を検討していきたい。 ● そのほかの職種についても、今後検討していきたい。

3 糸魚川総合病院について

	質問・意見の要旨	回答の要旨
①	数年前に糸魚川総合病院がなくなるのではないかと心配があったが、現状はどうなっているのか。	● 今回の再編は、病院をなくすためのものではなく、形を変えて残していくための取組である。 ● 病院が担っていた機能を他の病院に集約することや、病床数が減少することはあるかもしれないが、地域に医療を残すための取組とご理解いただきたい。
②	救急搬送を一番心配しており、これまで糸魚川総合病院で受け入れていた患者が現在は県立中央病院へ搬送されている現状があるが、今後はどうなるのか。	● 高度な治療が必要な急患については、医療機能が整備された病院へいち早く搬送することが重要であり、高度急性期機能を担う新中核病院で確実に受け入れられる体制を整備し、地域で安心して暮らせる医療体制を構築していきたい。
③	再編のロードマップに糸魚川総合病院の記載がないが、今回の再編における糸魚川総合病院の位置づけはどうなっているのか。	● 糸魚川総合病院については、現状の機能を引き続き担ってもらうため、ロードマップには掲載していない。
④	糸魚川総合病院はいつまで現状の機能を維持していけるのか。また、再編の見直しは、何年サイクルで行うのか。	● 糸魚川総合病院が現状の機能をいつまで維持していけるのか、具体的な見立てはないが、地域に医療を残していくための再編は今回で終わりというわけではなく、地域の医療需要や担い手の状況を踏まえて、随時検討が必要になると考えている。
⑤	糸魚川総合病院と新中核病院との連携の形はどうなるのか。	● 新中核病院にどのような医療機能を整備するか、具体的な検討は今後になるが、新中核病院に急性期機能を集約することで、新中核病院から糸魚川総合病院に提供が可能となる機能もあるのではないかと考えている。

⑥	糸魚川総合病院の病床がほぼ満床という状態が続くと、十分なりハビリを受けられないまま退院するケースが増えるのではないかと。	● 患者が必ずしも糸魚川総合病院に入院し続けるわけではなく、アグリよしだ病院が後方支援病院として糸魚川総合病院の患者を受け入れている状況もあると承知している。 ● 上越圏域の医療機関が連携して、うまく患者の流れができるように検討を進めていきたい。
⑦	糸魚川総合病院から透析の常勤医が不在となり、上越総合病院から派遣されるようになったことで、更生医療が適用されなくなり、患者負担が増加している。治療を受ける病院の違いで負担の差が生じている問題を解消して欲しい。	● 糸魚川総合病院の透析の専門医が不在となり、上越総合病院から2カ月ごとに医師が交代しながら透析治療が継続されている状況と承知している。 ● 更生医療（自立支援医療給付）を受けるためには、指定自立支援医療機関の指定要件である「診療従事年数が通算5年以上」の医師の配置が必要となるが、糸魚川総合病院がその要件を満たさなくなったことから、同院で透析を受けた場合に更生医療を受給することができなくなったものであり、今後、関係者と検討が必要と考えている。 ● 糸魚川総合病院の医師確保について、今後、新中核病院への医師集約による周辺病院への派遣などにより対応できるよう、検討を進めていきたい。
⑧	糸魚川総合病院では、透析の常勤医がいなくなり、上越総合病院から2か月ごとに派遣されているが、短期間で医師が変わることは不安であり、長期間診療に従事してくれる医師を今後も安定的に確保して欲しい。	● 新中核病院への医師集約による周辺病院への医師派遣について、地元の要望に合った形で派遣できるように進めていきたいと考えているが、どのような形になるのかは今後検討していくこととなる。

⑨	医療機能が低下しないよう、医師・看護師の確保については確実にやってほしい。	● 新中核病院へ医療機能を集約・強化することで、医師・看護師も集約し、新中核病院から周辺病院へ派遣する機能を整え、医療機能が低下しないよう進めていきたい。
⑩	糸魚川総合病院の医師確保について、新中核病院から糸魚川総合病院への医師派遣は確実にされる仕組みが検討されているのか。	● 新中核病院から新地ケア病院を含む周辺病院への医師派遣の仕組みについては、現在検討中であり、糸魚川総合病院への医師派遣が適切に行われるような体制を構築できるよう、引き続き検討を進めていきたい。
⑪	糸魚川総合病院の看護師の年齢構成は40代後半が多く、15年後にはこの層が退職することとなるが、同院の看護師確保に向けた課題や解決策はあるのか。	● 各病院での看護師確保の努力は引き続き必要であるが、新中核病院から看護師を周辺病院に派遣することも含め、地域全体で看護師を確保していく仕組みも今後検討する必要があると考えている。 ● 地元定着のための方策等について、糸魚川市・糸魚川総合病院と十日町看護専門学校で検討を行っているところである。
⑫	糸魚川総合病院の医師やスタッフは親切でがんばっているが、設備は年数が経過しており、不具合のある箇所もある。糸魚川総合病院を残す形で進めてもらいたい。	● 糸魚川の医療を残していくための議論の中で、対応できる部分はあると思うので、糸魚川総合病院を残していくためにも、再編の取組について検討を進めていきたい。

4 アグリよしだ病院及び介護施設について

	質問・意見の要旨	回答の要旨
①	アグリよしだ病院の稼働数はどうなっているのか。	● アグリよしだ病院は、令和7年4月以降、入院患者が増加傾向にあり、病床が60床あるうち、現状30～40床程度利用していると聞いている。
②	糸魚川市から上越市の介護施設に入所するケースもある。再編の検討にあたり、各市の介護関係部署と連携し、介護の見通しに関する検討は行っているのか。	● 高齢化の影響により、医療と介護の複合ニーズを持つ患者が増えており、糸魚川総合病院にも、介護相当の患者が入院している状況である。 ● 医療と介護の複合ニーズを持つ患者を、介護施設や有料老人ホームで受け入れてもらうことができれば、病院の医療機能を維持できると考えており、介護施設等が集まる会議で再編の説明を行うなど、これまでも介護との連携に取り組んできたところであり、これからも連携していきたい。

5 医療従事者の確保について

	質問・意見の要旨	回答の要旨
①	糸魚川市内の看護師確保は難しく、厚生連と県立病院では給与待遇に違いがあることから、看護師確保に苦慮している。	● 厚生連病院と県立病院で一定の給与差があることは承知しているが、直ちに格差を解消するのは困難であり、今回の診療報酬改定に盛り込まれた給与ベースアップ制度を活用するなどして、まずは病院として看護師確保に対応してもらいたいと考えている。 ● また、医療職以外の職種も賃金が上昇している中で、医療職に目を向けてもらうことも必要であり、待遇の改善や病院機能を強化して、病院の魅力向上を図ることも重要と考えている。
②	各病院の医師確保は誰が責任を持って行っているのか。	● 医師派遣は、大学の診療科の医局が担っており、各病院から大学へ個別に派遣を依頼しているのが現状である。 ● 再編により、新中核病院の機能を明確にすることで医師派遣につなげ、さらに派遣された医師を周辺病院へ派遣する体制の構築を目指し、関係機関が連携して医師確保に取り組んでいきたい。
③	上越医療圏内の各病院における看護師数は、入院患者に見合ったものになっているのか。	● 糸魚川総合病院が看護師確保に苦慮していると聞いており、上越圏域の厚生連病院の間で看護師の融通が図られていると承知している。 ● このような取組もあり、保健所が年に1回行っている調査では、糸魚川管内の病院は、患者に対する標準的な医師・看護師等の配置人数が確保できていると確認している。 ● 少子高齢化の影響で医療の担い手が減少することから、今後は看護師の確保がより難しくなると考えられるため、医師だけでなく看護師についても、新中核病院から派遣できる体制の検討を進めていきたい。

④	就業している看護師の年齢について、70代でも勤務していることも考慮して、看護師確保をしてもらいたい。	● 年齢構成は、少子高齢化の影響を少なからず受けるため、地域全体で対応できるよう検討を進めていきたい。
---	---	---

6 交通アクセスについて

	質問・意見の要旨	回答の要旨
①	上越市の病院へ搬送された場合、帰りの交通手段で困る人や、バスや電車の利用が難しい高齢者もいるのではないか。	● 救急搬送後など、運転が困難な高齢者の交通アクセスについても課題であると認識しており、地元市と連携しながら対応を検討していきたい。

7 市民説明会について

	質問・意見の要旨	回答の要旨
①	市民説明会での質疑概要をホームページに掲載することだが、できるだけ質問と回答は事務局でまとめることなく、そのままの形で掲載して欲しい。	● 説明会に参加されていない方にも、医療再編に関する理解を深めていただくため、わかりやすいものとなるよう、要旨としてとりまとめたいたいと考えている。
②	説明にあたり、視覚障害者への配慮が足りないのではないか。	● 今回は配慮ができていなかった。 ● 希望があれば、個別説明等の対応をさせていただきたいと考えている。

8 その他

	質問・意見の要旨	回答の要旨
①	市民にできることがあれば教えてほしい。	● かかりつけ医を持つことや救急車の適正利用など、医療の上手なかかり方について理解を深め、協力していただきたい。 ● 県としても、医療従事者が尽力している状況も伝えながら、市民の皆様に啓発を行っていききたい。
②	病気になった際、まずはかかりつけ医にと言われるが、難病など開業医では対応や診断が難しい場合もあるため、適切に病院へ紹介するなど、開業医と病院との連携を図ってほしい。 また、開業医の診療の質を向上させるよう、医師会の対応を工夫して欲しい。	● 身近な医療を提供する診療所医師の資質の向上や、必要に応じて専門医につなぐことはこれまでも課題であり、医師会で研修や講習も行っており、重症になったらかかりつけ医から専門医へという流れがあるが、どのような症状・検査結果から病院へ紹介するか、特に希少な難病となれば、判断は難しいところである。 ● 医療再編によって新中核病院が整備されれば、将来的にオンラインでかかりつけ医からの相談や診断支援などの仕組みも検討できるのではないかと。